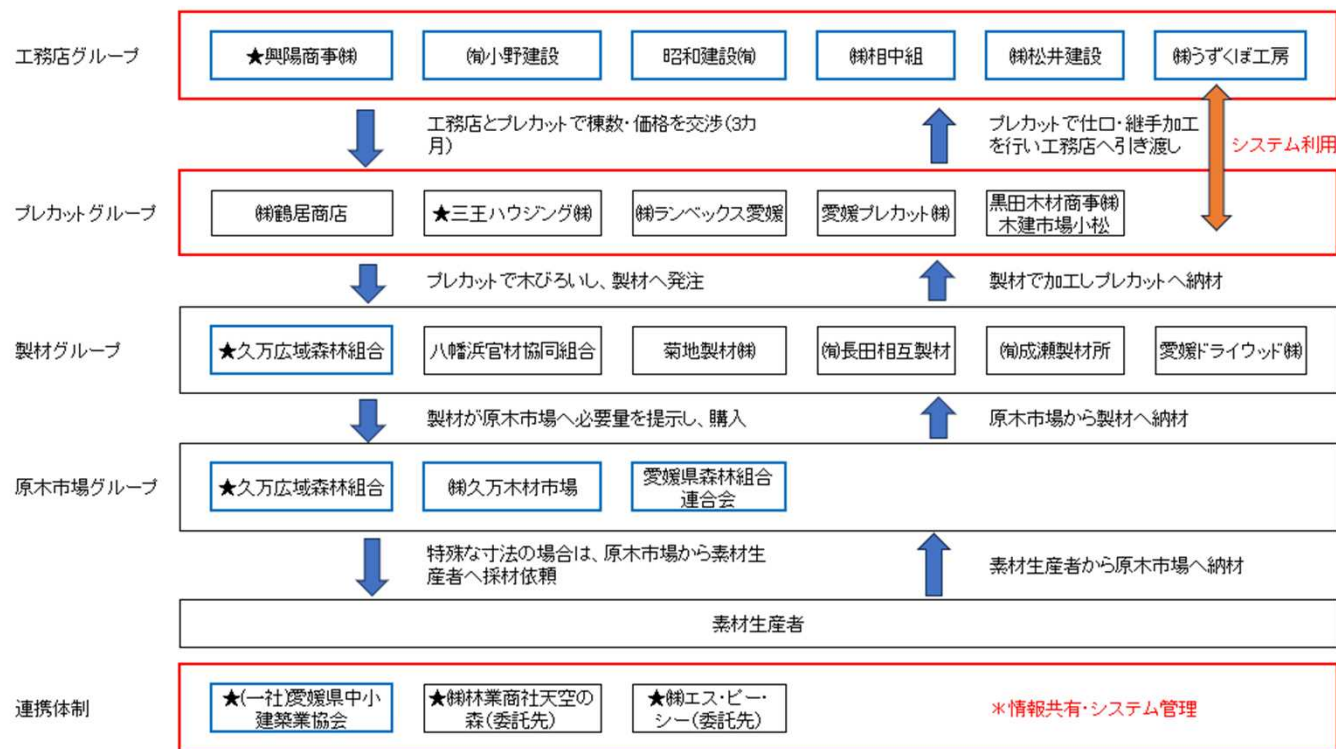


1. 全体概要

○事業の実施体制



○構築した仕組みの運用体制

運用体制は今年度事業の構成員と協議し、体制構築を進めた。

2. 取組の背景、地域の課題

- 外材の輸入量減少と価格急騰により発生したウッドショックは、国産材にも大きな影響を及ぼし、愛媛県内においても建築資材の不足で、会員工務店の活動にも大きな影響を与えた。
- 愛媛県内の大手製材事業者は県外取引の割合が大きく、県内建築事業者との取引が少ないため、外材が入らない状況になったとしても、県産材へ急な転換ができないのが現状である。よって平時より県内の川上事業者・川中事業者、川下事業者の連携体制の構築と維持が重要となる。

3. 取組の概要、成果

○仕組みの構築

- ①委員会4回開催:進捗管理・WG結果報告
- ②WG9回開催:仕組みの構築の検討・協議
- ③アンケート調査実施・分析:構造材等の状況調査
- ④工務店ヒアリング調査:建売モデルの調査
- ⑤工務店240社調査:年間棟数外材使用の調査
- ⑥共通規格部材選定:ヒアリング・アンケート調査
- ⑦県産材(JAS規格)適合部材展示会の実施
- ⑧工務店説明会:本事業の参画意思確認

○システム構築

システム開発の構築

○成果

川上側は木材価格のUP、何がどれだけ欲しいのか。
 川下側は必要な時に、必要な量を安く欲しい。
 解決策として、両者で話し合い共通規格部材を設定して棟数の限定・価格の設定をすることとした。
 工務店⇒プレカット⇒製材⇒木材市場⇒伐採業者の順にスムーズに情報を流すことで安定供給につなげる。
 川上から川下事業者、行政が一体となり仕組みの構築ができたこと。

4. 今後の取組、課題

- システム運用と現実的に機能するかの検証
- JAS材の認知向上と使用メリットの周知
- 参画工務店の拡大
- 事業継続のための維持運営費の確保
- 地域型住宅グリーン化事業との連携